１４・７・２０

「神に愛されている者として」　コロサイ３：１２

Ⅰ　常に先行している神の愛、恵み。

１.「それゆえ」: 原語「ウーン」、そういうわけですから。だから。: ９～１１を受けて、キリストがあらゆる人々（私達も）を愛し、差別、隔ての壁を十字架において打ち壊し（エペ２：１４，１５）、キリストを信じるすべての人のうちにおられるのですから。

２.「神に選ばれた者」。私達への確実な驚くべき恵み。いつ救いに選ばれていた？→「神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前できよく、傷のない者にしようとされました。神は、ただみこころのままに、私達をイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられたのです」（１：４，５）。人知をはるかに越えた恵み、愛！「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです」（ヨハ１５：１６）。私達が教会に行ったのも、主を信じたのも、私達が先に選んだのではなく、主のほうが先に私達を選び招いてくださったからこそ、教会に行くことができたし、主を信じることができたのです。一つ一つのきっかけ、出会いも神が用意しておられたのです。何という恵みでしょう。

３.「聖なる」原語：神にささげられた、（神に）聖別された（神のものとして取り分けられた）、聖なる。私達は、自分で自分を聖なるものとすることは決してできない。私たちは罪で汚れに汚れていたが主の尊い十字架の血で聖められ、神のものとして買い戻された。今も自分の罪を告白する度に、主の十字架の血できよめられ続けている→「私たちも光の中を歩んでいるなら（神に正直に罪を告白するなら）、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます（原語：きよめ続けます）」（Ⅰヨハ１：７）。

４.「愛されている者として」。原語：完了分詞形。神に愛され、現在も愛され続けている。神は、御子をクリスマスに世に送られた時も、十字架につけられた時も、私達が主を信じ洗礼を受けた時も、そして今もこれからも永遠に変わらない愛で私達を愛してくださる。嘘つきの悪魔、そして古い性質は「おまえなんか神に愛されていない」と偽りを言う。しかし真実な神の御言葉に耳を傾け続けよう→「神に愛されている人々」（ローマ１：７）、「神に愛されている兄弟たち」（Ⅰテサ１：４）、「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」（イザヤ４３：４）。「として」が大切。神に愛されている事実を深く自覚して。

Ⅱ　神の愛を十分受けている者としての五つの徳を「身につけなさい」。

１.「深い同情心」。私達は、自分が同じような悩み、痛み、辛さを経験しないと深い同情心を抱くことは難しい。しかし、深い同情心に満ちた主を信じ心に迎える時、私達の心にも深い同情心が生まれる、辛い体験を通しても与えられる。「彼は、自分自身も弱さを身にまとっているので…人々を思いやることができるのです」ヘブル５：２。深い同情心の原語：「同情、憐れみ、慈悲」（同語の箇所：「神のあわれみ」ローマ１２：１、「慈愛の父」Ⅱコリ１：３）の「内臓、心、憐れみ、愛情」

（同語の箇所：「イエスの愛の心」ピリピ１：８。動詞形、羊飼いのない羊のように弱り果てている彼らを「かわいそうに思われた」マタ９：３６）。主は、今も深い同情心で私達を羊飼いとして愛されている。

２．「慈愛」原語：善、正しい事、正直、正義、親切、仁慈、好意。人に対する思いやりのある優しさ。主が私達に対して、思いやりがあり優しい方なので、その愛を受ける時、私達もまた他の人に慈愛、思いやりのある優しさをもって接することができるように変えられる。

３．「謙遜」。これは、自分自身への正しい見方から生まれる。私達は、神に造られた被造物であると言う自覚と、私達は、自分自身の数えきれない罪の故にとっくに滅んで当然であったにもかかわらず、クリスマスに世に来られたキリストの十字架の死の恵みにより救われた罪人のかしら、ただただ神の憐れみのゆえに愛され生かされていると言う深い自覚により謙遜にさせられる。真の謙遜は、自分の罪と弱さを深く自覚し、心から神に拠り頼む。そして人の賜物を認め尊敬し、神にだけではなく人にも仕える。

４．「柔和」原語：柔和、温順。主の柔和は、私達の罪のためのクリスマス、生涯、十字架の死に見られる。「キリストは神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして（特権を主張されずに）、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質（感情も）を持って現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架にまでも従われました」（ピリ２：６～８）。この柔和な主を見つめ思い続け、主の愛を受ける時、私達も他の人に柔和な者へと変えられる。「寛容」原語：忍耐、寛容、気長。長い苦しみ。主は、私達に寄り添い、長く苦しむ時も見捨てず、あきらめずそばにいて共に苦しみ理解して下さる。主が下さる寛容は、他者の愚かさや無知にも、決して節度のない批判や愚痴をもって反発しない。他者の嘲笑や軽蔑、悪意ある態度にも決して恨み復讐したりしないで愛をもって真実を語る。神のご支配、御訓練の中で、いらいらさせるような人と面と向き合わなければならない所を通せられる。悪魔と自分の中にある古い性質は、性急に過剰に反応させ、その人を憎み恨み、すぐに仕返し復讐させようとする。そんな時、神が、主が今日まで自分自身に対してどんなに寛容をもって愛して来られたか、深く深く思い出そう。静まりの時を持ち、深く主の寛容を思い巡らしたい。私達はその深い愛を忘れ易い。もし神が寛容な方でないなら、私達は誰一人生きてはいない。とっくに滅んでいる。しかし寛容な神に愛され赦され生かされている。それゆえに私達も互いに寛容であるべきである。私達は、神が受け入れてくださった自分自身を自分でも受け入れ（これは非常に大切。神は、欠けがあるままの私達を受け入れて下さった。その欠けのある自分を受け入れる時、欠けのある人を受け入れ易くなる。祈りましょう。神が受け入れて下さった自分を自分でも受け入れることが出来るように）、また神が愛されている他の人を受け入れ、互いに主にあって寛容であることができるように祈りたい。

神からの「愛は、寛容であり」Ｉコリント１３：４。

「あなたの隣人を、あなた自身のように愛せよ」マタイ２２：３９。